

教職員による授業評価を生かした授業改善

阿東町立阿東東中学校

授業評価の目的

教職員による授業評価も、児童生徒や保護者による授業評価と同様、授業改善が目的である。

より専門的で具体的な評価が求められるが、そのねらいは、児童生徒に「わかる喜び学ぶ楽しさ」を味わわせる授業をつくり出すことにある。

授業評価の実際

本校では研究授業を実施する際に、参観する教職員は「授業研究の視点」(資料1)という授業評価表を持参する。「授業のねらい」「指導技術」「生徒の取組状況」などを評価項目とし4段階で評価する。

新採用

授業研究の視点

日時	平成18年()月()日()第()校時		
教科等		参観者	

1. 「評価」の欄に、下記の4～1の観点からそれぞれの項目に○をつけてください。
【観点】4:とても当てはまる 3:やや当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:まったく当てはまらない

No.	項目	4	3	2	1
1	今日の授業の「ねらい(課題)」が示されている。	4	3	2	1
2	今日の授業のポイントがきちんとおさえられている。	4	3	2	1
3	生徒が興味、関心をもって意欲的に取り組んでいる。	4	3	2	1
4	学習規律(姿勢、話し方、聞く態度など)を適切に指導している。	4	3	2	1
5	授業はわかりやすく工夫されている。	4	3	2	1
6	生徒への発問や説明に工夫がみられる。	4	3	2	1
7	一人一人に目を向けながら、授業を進めている。	4	3	2	1
8	メモを取りやすいように、ワークシートや発言などが工夫されている。	4	3	2	1
9	授業の進む速さは、生徒にとってちょうどよい。	4	3	2	1

2. 上の発問に対する評価で、1または2を選ばれた方は、質問項目No.を記入し、その理由を書いてください。

質問項目No. ()	コメント(理由)
質問項目No. ()	コメント(理由)
質問項目No. ()	コメント(理由)
質問項目No. ()	コメント(理由)

3. 質問項目以外で気づきがありましたら、自由に記述してください。

(資料1「授業研究の視点」)

研究授業終了後の研究協議では、参観した教職員の評価をまとめて資料として提示する。

次に示すのは、1学期に実施した2年国語科での研究授業における取組である。

課題がみられた評価項目

- ・生徒が興味・関心をもって意欲的に取り組んでいる。
- ・生徒への発問や説明に工夫が見られる。



改善点

- ・「多様な読み方」ができるようなグループによる活動を取り入れる。
- ・ワークシートを興味・関心別に作成する。
- ・生徒同士が積極的に発言できるような発問を工夫する。



成果

(学力面)

- ・「読むこと」に関して、下位の生徒に著しい向上が見られた。
- (生徒の授業後の感想)
- ・いろいろな意見が聞けて楽しかった。



(国語科の研究授業風景写真)

授業評価の成果

「授業研究の視点」を活用した授業評価に取り組み始めて、研究協議での話し合いが効率的に進められるようになった。数値としての資料を提示することで客観的に授業を振り返ることができ、共通の視点で意見交換をすることができた。

また、評価の低かった項目については、具体的に指摘されているので、意見交換が活発に行われた。授業者にとっても改善の方向がはっきりしているのので、授業改善の取組が容易になる。

授業改善に取り組むにあたっては、その具体策をまとめた「授業改善表」(資料2)を作成し、職員会議等で示すこととしている。ここまで実施して、授業の計画(P)→授業の実施(D)→授業評価(C)→授業改善表の作成(A)という授業評価システムのサイクルを進めたことになる。

教科	学年	国語	単元・題材 指導者	心のきずなをとらえる…「字のないはがき」																																																						
1. つけたい力(伸ばしたい言語能力) 読む力(家族の行動とその心情を読みとる力)																																																										
2. 生徒による評価(数値)																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) この授業で「何を学習するのか」わかりましたか。</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(2) 授業に自分から進んで取り組みましたか。</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(3) 先生の説明がよくわかりましたか。</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(4) 先生の顔や表情の意見を聞いてメモを取ることができましたか。</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(5) この授業の進み方は自分にとってちょうどよかったですか。</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(6) 欠席の行動と心情をつかむことができましたか。</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>(7) 自分の考えをもとに話し合うことができましたか。</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>(8) 家族の心情について読みとることができましたか。</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>						1	2	3	4	5	(1) この授業で「何を学習するのか」わかりましたか。	1	4	1	3	1	(2) 授業に自分から進んで取り組みましたか。	1	1	2	3	1	(3) 先生の説明がよくわかりましたか。	1	5	1	3	1	(4) 先生の顔や表情の意見を聞いてメモを取ることができましたか。	1	5	1	3	1	(5) この授業の進み方は自分にとってちょうどよかったですか。	1	1	4	5	1	(6) 欠席の行動と心情をつかむことができましたか。	3	1	4	7	3	(7) 自分の考えをもとに話し合うことができましたか。	1	0	1	3	9	(8) 家族の心情について読みとることができましたか。	1	0	1	5	1
	1	2	3	4	5																																																					
(1) この授業で「何を学習するのか」わかりましたか。	1	4	1	3	1																																																					
(2) 授業に自分から進んで取り組みましたか。	1	1	2	3	1																																																					
(3) 先生の説明がよくわかりましたか。	1	5	1	3	1																																																					
(4) 先生の顔や表情の意見を聞いてメモを取ることができましたか。	1	5	1	3	1																																																					
(5) この授業の進み方は自分にとってちょうどよかったですか。	1	1	4	5	1																																																					
(6) 欠席の行動と心情をつかむことができましたか。	3	1	4	7	3																																																					
(7) 自分の考えをもとに話し合うことができましたか。	1	0	1	3	9																																																					
(8) 家族の心情について読みとることができましたか。	1	0	1	5	1																																																					
3. 生徒による評価(自由記述)																																																										
<ul style="list-style-type: none"> ・題名の意味がなんとなく分かった気がする。 ・黒板にまとめて書いてくれるので分かりやすい。 ・授業に集中できた。 ・親子の関わりについてよく分かった。 ・最後に時間が少し少なかった。 ・話し合いであまり意見が出せなかった。 ・進んで授業を受けることができた。 ・学習など文章や漢字が難しくなると感じた。 ・黒板が見やすく分かりやすかった。 ・国語は数学のように等が一つでなく学習するのが難しい。 ・何を学習するのかよく分かった。 ・また学習の内容がつかめていなかったのでもう分かった。 																																																										
4. 反省と考察(自己評価・研究協議)																																																										
<ul style="list-style-type: none"> ・新出語句のおさえ方が不十分だったため、生徒からキーワードがすぐ出なかった。 ・観察当時の状況は、生徒で練習済みだったのでも生徒にはなじみやすかったようだ。 ・線を引かながら紙を聞くということが全員に徹底していなかった。 ・ワークシートなどメモを取ることがまだ充分練習されていなかった。 ・自分の考えで答えるべきところが、教科書から抜き出すようにしていた。 																																																										
5. 今後の取組																																																										
<ul style="list-style-type: none"> ・この題材は暗黙で、内容的にも親子関係をあつかっているため、生徒達にとっては難しいものがあったと思われる。ただし、内容を準備するキーワードを生徒が充分理解しているか確認する手だてを工夫する必要がある。 ・また、自分の考えをもとに話し合い活動を展開することで互いの読み方が理解できたとする。今後生徒が多様な読み方を理解していくための場面や先生の意見を要約してメモをしていく授業を仕組んでいきたい。 																																																										

(資料2 「授業改善表」)

こうした評価システムにより、研究協議が形式的なものから深まりのあるものへと改善され、授業力の向上にも効果的に働いている。

また、研究授業が活性化し授業力を身に付けた教職員が増えてくることは、保護者・地域からの信頼の向上にもつながると考える。

課題とその対策

学校教育目標につながる授業評価

学校の教育課程は、それぞれの学校教育目標をもとに編成されている。したがって、研究授業はその学校教育目標を達成するための一つの手段でなければならない。

「授業研究の視点」には、評価項目の中に学校教育目標の視点を入れることで、授業改善が学校教育目標につながるようにした。

こうした授業評価は全校体制で取り組むことが不可欠である。そのためには、年度初めにその目的と意義について共通理解しておくとともに、誰が、いつ研究授業を行うかなどの詳細な計画を立てた上で、取り組むことが大切である。

他校との交流

本校のような小規模校では、同一教科の教員がいないため、校内研修において教科内容に関わる研修が十分とはいえない。

そのために、同じ町内の中学校との授業交流や共同研修による教員の連携が重要になる。現在、年に2回の研究授業の機会を設け、お互いに授業を公開して研修を進めるとともに、ワークシート作成や評価規準の設定などで連携した取組を行っている。

今後の目標

授業評価システムのサイクルは常に動いている。具体的に授業改善を計画し、評価した時点で新たなサイクルがスタートすることになる。

今後はこの授業改善のサイクルにより、授業がどのように変化していくかを記録・蓄積できるシステムを構築していきたい。